

第65回現代歌人協会賞選考経過

坂井修一

今年度の現代歌人協会賞選考委員は、沖ななも、奥田亡羊、久我田鶴子、栗木京子、内藤明、御供平佑、坂井修一(委員長)の七名。コロナ禍のため、電子メール、slack、Zoomを使って選考が行われた。

この五歌集についての議論は、三月一五日から二五日にかけて、主にzoomを用いて行われた。

・田宮智美(塔)『にず』

ゆるやかに解雇通告されており麦茶のグラスに水滴増えて外回りしてるだろうかワイシヤツにわたしの付けた釦をはめて

東日本大震災の被災者が、等身大の自分と社会を描いている。さまざまな不幸の中で、ユーモアと優しさが自然に出た。表現の素朴さ・緩さについては、賛否両論があった。

・阿波野巧也(羽根と根)『ビギナーズラック』

ガードレールがわずかにへこみ陰をなすところに触れる遠く半月

肉を食べたりおしゃれな服を着たりしてぼろぼろの十円銅貨みただ

今の時代の若者の心情がフラットに描かれている。さまざまなことだわりを持ちながら繊細で、歌人としての自覚もあるようだ。自分という存在をもっと深掘りしてほしいという意見もあった。

・川野芽生(穀物)『Lilith』

harassとは猟犬をけしかける声 その鹿がつかれはてて死ぬまで

カサンドラの詞さみしき凍月のひかりは地へ落ちつづけた

詩的言語感覚に優れ、ハラスメントなどの主題も今という時代に合っている。言葉の切れ味が良い。西洋古典や現代思想の摂取も盛んで立体感がある。そんな好評の一方で、一人よがりなところが気になる、という声もあった。

・小林真代(塔)『Tut』

除染なら三十年は仕事がある。食ひつぱぐれない。やらないか、除染
親方とよべば「あいよ」と応へありそのこゑをたよりに足場を上げる

第65回現代歌人協会賞

歌集『Lilith』

川野芽生(かわの・めぐみ)

二〇二〇年九月二十四日(書肆侃侃房)

【略歴】一九九一年生。神奈川県出身。「穀物」所属。第29回歌壇賞

歌集『崖にて』

北山あさひ(きたやま・あさひ)

二〇二〇年十一月六日(現代短歌社)

【略歴】一九八三年生。北海道出身。「まひる野」所属。第59回まひる野賞、第7回現代短歌社賞

福島の大震災者として深刻な現実を骨太に歌う。大らかな詠いぶりで好感がもてる。家族詠に独自のものがある。そんな好評の中、表現としての深さが今一つ、という意見もあった。

・北山あさひ(まひる野)『崖にて』

北にすむひとよ南にすむひとよ空を見上げるだけで手紙だ恋人が兵隊になり兵隊が神様になる ニッポンはギャグ

一読して粗くさらった作品群だが、よく見ると複雑な思いがしつかり詠み込まれている。時代の生きづらさ、北の地で暮らす苦楽などがよく出ている。問題点として、少し流したような歌もあった。五歌集についての意見交換の後、三月二六日、受賞作を決めるための討論がZoomで行われた。

その結果、傾向は異なるが高い実力を示した『Lilith』『崖にて』の二冊を、第六五回現代歌人協会賞の委員会推薦歌集とすることで全員の合意が得られた。さらに、四月八日の理事会で本件が承認され、この二冊の授賞が決定した。

委員の間では、受賞作以外の候補作への応援の声もあった。過去の受賞者と候補者の関係を見ても、第二歌集を出すときには、両者の評価が逆転していることも多い。五人ともに、自信をもって、これからの短歌の世界の中心となつて活動していただきたい。